

清水庁舎整備と清水駅東口のサッカースタジアム構想についての指示事項

静岡市長 難波喬司

この2つの項目については、一部新聞報道で、事実と異なる記事が掲載されたことから、指示事項を詳しく示します。

1 清水庁舎整備

指示事項：「清水庁舎の整備方針を、原位置改修/耐用年数20年としたことを尊重し、原位置改修案の検討精度をあげるため、より精緻な耐震性の解析を行うこと」

なお、なぜ原位置改修案を選択したかについては、これまでの市の説明はわかりにくいものでした。選択理由について、私の理解を「資料3」のとおり示すことで、よりわかりやすいものになると考えます。

2 清水駅東口 サッカースタジアム構想について

指示事項：「民間投資判断における不確実性をできるだけ小さくするため、まず、ENEOS 用地の活用上の課題や利用条件を整理するための調査をより精緻に行うこと。FS(フィージビリティスタディ)を行うこととしているが、現段階において検討の幅を狭めないため、市が率先して施設計画案を描かないこと」

(背景)令和5年度、市は、IAI スタジアムの改修案を精査するとともに、新スタジアムの最有力候補地とされた清水駅東口において、FS として、施設整備計画や概算工事費の算定も行う予定だった。しかし、まずは、都市計画上の位置づけや、液状化や土壌汚染等の可能性、津波対策の必要度等についての調査をより精緻に行い、社会に提示することを優先することが、民間事業者に投資を検討いただく上で重要であると判断しました。

(以上)

(以上)